

輝く“合志の若い力”

令和7年度に頑張った
子どもたちを紹介します
(学年は当時)

学童軟式野球



学童軟式野球のクラブチーム・合志南クラブの皆さん。県内46チームが出場したリーグ戦と決勝トーナメントによる県予選を見事に勝ち上がり、『オールジャパンベースボールリーグ小等部2025全国大会』(11月22日～24日・愛知県)に出場しました。大会の1カ月前には荒木市長と中島教育長の激励を受け、全国の舞台上で躍動しました。

絵画・作文



県立黒石原支援学校中学部3年の田中蒼人さん(左)が描いた、夕暮れの動物園を表現した絵画が『第32回全国特別支援学校文化祭』の造形部門で優秀賞を受賞しました。同じく3年の笹原遥さん(右)が書いた、自分を受け止め認めてくれた茶道の先生への深い感謝を綴った作文が令和7年度障害者週間の『心の輪を広げる体験作文』で最優秀賞(内閣総理大臣表彰)を受賞しました。

市民のひろば



100歳おめでとうございます

2月・3月に100歳を迎えた人に、市長からお祝い状とお祝い金が贈られました。



八並 マツヨさん
(大正15年2月11日生まれ)

ふるかわ ちはる
古川 知春さん
(大正15年2月15日生まれ)

のぐち
野口 アツコさん
(大正15年3月3日生まれ)

ロボット製作・制御技術で高評価 ロボコン大賞を受賞

1月22日、高専ロボコン2025全国大会(令和7年11月・東京都)でロボコン大賞を受賞した、熊本高専熊本キャンパスチームの『強奪名星』が市役所を訪れました。チームは、製作したロボットで箱を積み上げてゲートを作り、それをくぐる競技に出場し、今大会で最も高い、高さ4.2mのゲートを完成させました。惜しくも準優勝でしたが、アイデアや技術が高く評価され、大会優勝と同じく名誉あるロボコン大賞に輝きました。



チームの皆さん

駆け抜けた100.5キロ 第52回郡市対抗熊日駅伝

2月8日、天草～熊本間で第52回郡市対抗熊日駅伝が開催されました。雪が降る厳しい寒さの中、19郡市が18区間100.5キロを競い、菊池郡市チームは3位入賞を飾りました。菊池郡市陸上競技協会会長の高木敏明さん(平島区)は「一本のたすきを選手一丸となってつなぎ、走り抜いた結果であり、来年も楽しみな、見事なチームだった」と話しました。



菊池郡市選手の皆さん
(結団式の様子)

地域学校協働活動に貢献された 推進委員へ感謝状を贈呈

2月3日、地域学校協働活動の推進に5年間貢献された宮崎幸恵さん(南ヶ丘小学校推進員)に感謝状を贈りました。宮崎さんは、「これからも学校を核とした地域づくりの実現を目指して、合志市が大好きと言える子どもたちを育てるために地域貢献を中心に活動していきたい」と語りました。



左から中島教育長、
宮崎さん

今が旬です“合志のスイカ”

JA菊池管内で本市の生産者が中心となって栽培しているスイカの出荷がピークを迎えています。2月24日には、糖度12度前後の小玉スイカ『ひとりじめ』が初出荷を迎え、スイカ選果場(野々島)で糖度の測定や大きさの選別などを経て、関東方面に送り出されました。ことしは冬の寒暖差によって、ここ数年で一番の出来だということです。3月中旬には大玉スイカの出荷も始まり、合志のスイカの出荷は6月中旬まで続く見込みです。



- ①レーンに並ぶ小玉スイカ
- ②赤い果肉は甘味、食感共に上々
- ③箱詰めされて出荷
- ④小玉スイカをPRするJA菊池東哲哉組合長(右)と安武茂西瓜部会長

健康食レシピ



こぎつねごはん

炊いたご飯に混ぜるだけでできる、簡単につくれる一品です。サヤインゲンを炒めず、最後に合わせるのが彩りよく仕上げるポイントです。

【栄養価】(1人当たり) エネルギー・・・376kcal たんぱく質・・・12.2g 塩分・・・1.5g

材料(4人分)	
米	2合
サヤインゲン	30g
油揚げ	30g
ニンジン	30g
サラダ油	小さじ1
鶏ひき肉	100g
酒	大さじ1
だし汁	60cc
砂糖	大さじ1・小さじ1
しょうゆ	大さじ2

作り方

- ①米を通常炊飯する。
- ②サヤインゲンは茹で、斜めに薄く切る。油揚げは油抜きをして細切りにする。ニンジンは千切りにする。
- ③鍋に油を入れてひき肉を炒める。酒を加えてポロポロの状態にする。
- ④③にニンジン、油揚げを入れ、だし汁を入れる。ニンジンがある程度煮えたら、砂糖としょうゆを加え、だし汁がなくなったら味をみて火を止める。
- ⑤炊き上がったご飯に、④の具とサヤインゲンを混ぜ合わせる。

創業60周年記念事業 セイブクリングループからお米寄贈

2月17日、セイブクリングループが創業60周年記念事業の一環として米160キロを、本市を通じて市内のこども食堂やフードパントリーに寄贈しました。坂井さゆり代表取締役は、「地球温暖化防止の取り組みとして、水田を活用した米づくりを行ないました。このお米が子どもたちの健やかな成長と笑顔につながることを願っています」と挨拶しました。



左から藤井統括事業部長、
荒木市長、坂井代表取締役、
高本さん

将来の農業を支える 若手農業者を激励

2月4日、新規就農者への激励を兼ねて就農奨励金交付式を行ない、市内新規就農者1人に目録を交付しました。有限会社櫻井牧場で親元就農(新規就農)された櫻井駿也さんは「感謝の気持ちを忘れず、慢心することがないように取り組んでいきます」と決意を語り、関係機関からの激励を受けました。



家族経営で
農業を盛りあげます